

令和3年度 理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「改訂 化学基礎」(東京書籍)						
副教材等	「基本セレクト 化学基礎」(数研出版)						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

1学期中間までは中学校の化学の範囲も復習しながら行います。特に1学期の内容が分からなくなると、2学期の内容が分からなくなり、2学期が分からなくなると3学期も難しくなります。化学基礎の授業の内容自体は「基礎」なので、そこまで難しくはありません。しかし授業を疎かにしたり、復習や自主学習を怠ると一気に難しく感じると思います。言い換えると特別な学習は必要ありません。授業を大切にすることと、こまめな復習をすること、分からない内容が出たらすぐに質問することなど当たり前のことを大切にしてください。

2. 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

3. 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する考察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業中の取り組みの様子 提出物 定期考査	授業中の取り組みの様子 提出物 定期考査	授業中の取り組みの様子 提出物 定期考査	授業中の取り組みの様子 提出物 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期 前半	物質の構成	1.純物質と混合物 2.物質とその成分 3.物質の三態と熱運動	○	○		○	a:原子と元素の意味や元素という概念に興味をもつ。 b:いろいろな物質について、単体と化合物に分類することができる。 c: d:混合物を分離する操作の方法をあげられる。	提出物 定期考査
1 学期 後半	物質の構成粒子	1.原子とその構造 2.イオン 3.周期表	○	○		○	a:同じ元素でも粒子の構成が異なるものがあることに興味をもつ。 b:周期表の中に周期律が見いだせることに気づく。 c: d:元素の、典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布を理解している。	提出物 定期考査
2 学期 前半	粒子の結合	1.イオン結合 2.分子と共有結合 3.分子間にはたらく力 4.共有結合結晶 5.金属結合	○	○		○	a:化学結合に興味をもつ。 b:物質を様々な化学式で書くことができる。 c: d:化学結合が、金属・非金属の組み合わせによることを理解している。	提出物 定期考査
2 学期 後半	物質量と化学反応式	1.原子量・分子量・式量 2.物質量 3.化学反応式と物質量	○	○		○	a:化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。 b:物質量の概念を使い、粒子数・質量・気体の体積に関する計算ができる。 c: d:化学反応における量的な関係を化学反応式から読み取ることができる。	提出物 定期考査
3 学期	酸と塩基の反応	1.酸・塩基 2.水の電離と水溶液のpH 3.中和反応	○	○	○	○	a:酸とは何か、塩基とは何かに関心をもつ。 b:酸・塩基による中和反応の量的関係に気づく。 c:中和滴定で使用する器具を正しく扱うことができる。 d:中和の量的関係を数値計算により求めることができる。	提出物 定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
 c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。